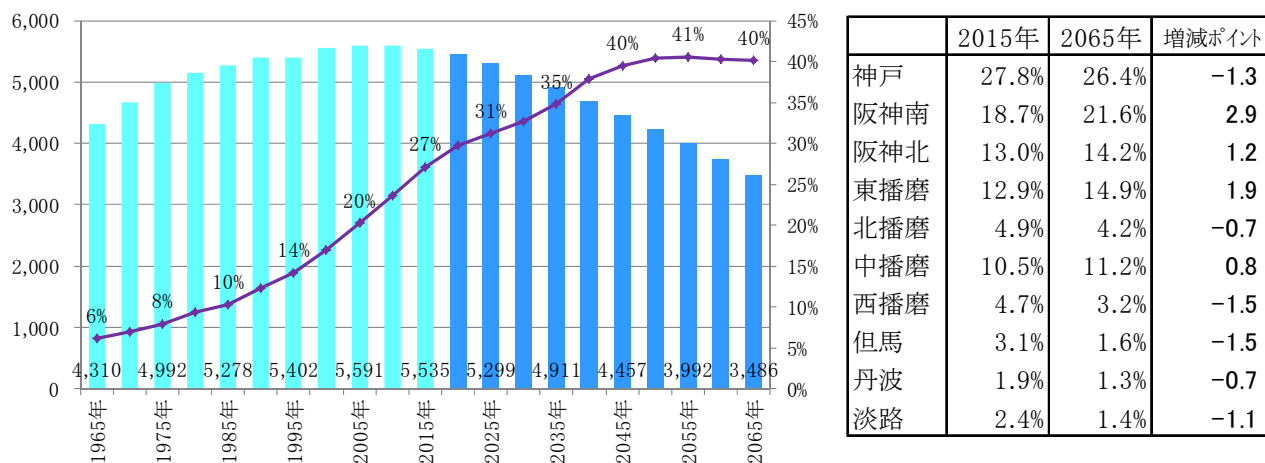


2050年の兵庫像（イメージ）

兵庫県全体（29市12町）

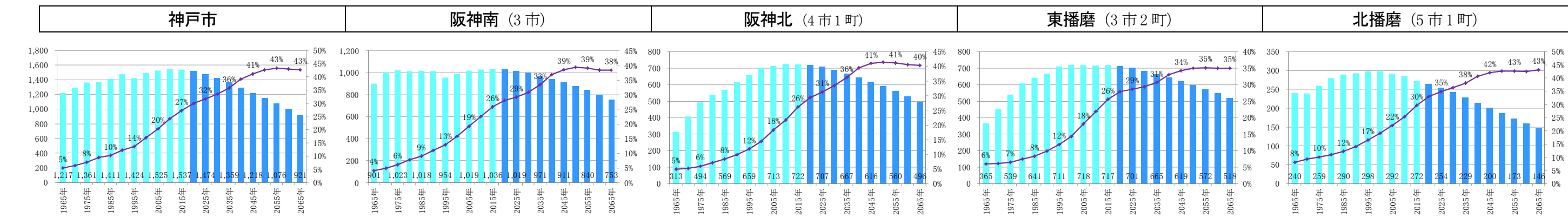
1965～2065年の人口(千人)と65歳以上人口比率の推移(2020年以降は推計) 県内10地域の人口シェアの変化

①面積 8,401km²、②人口密度(km²当たり)653人、③世帯数 2,365千戸

当面の基盤整備等	<p>道路:大阪湾岸道路西伸部、播磨臨海地域道路、山陰近畿自動車道・北近畿豊岡自動車道等の整備</p> <p>空港:関西3空港の一体運用による最大活用、神戸空港の利便性向上(運用時間延長、国際線就航等)</p> <p>港湾:阪神港(国際コンテナ戦略港湾)の競争力強化、大型クルーズ船を呼び込むための魅力向上</p> <p>鉄道:リニア中央新幹線(名古屋～大阪:2037年頃開業想定)、北陸新幹線(敦賀～大阪)の整備</p> <p>都市:三宮再整備、県庁周辺再整備、各地の市街地再開発(JR西宮駅、JR芦屋駅、垂水駅等)</p> <p>学術:国際観光芸術専門職大学(豊岡:2021年度開学)、スパコン「富岳」(神戸医療産業都市)</p> <p>医療:はりま姫路総合医療センター(仮称)開院、県立西宮病院と西宮市立中央病院の統合</p>
地域の姿	<ul style="list-style-type: none"> ・県内での人口の偏在化が更に進行(神戸・阪神間と、明石など播磨臨海部への一層の集住化) ・神戸・阪神間では駅前再開発等により住宅供給が続き、大阪を含む周辺地域から人口が流入 ・郊外住宅地ではオールドニュータウン化が進み、再生する住宅地と衰退する住宅地に二極化 ・多自然地域では駅前・高速道路結節点等に生活利便施設が集積し、その周辺部へ人口が集中 ・山間部から順に集落の無人化が進み、山林等が荒廃。山間部の道路の維持は次第に困難に ・多自然地域ではコンビニ、郵便局、銀行、薬局、給油、飲食等が一箇所に集まった生活拠点が形成 ・サイクリング、トレッキングを含め「体験」を楽しむ個人旅行者が増加、特に外国人旅行者が増加 ・二地域居住、多自然居住の受け皿として空き家利用が進む一方、放置空き家が急増し、社会問題化 ・労働力不足により事業活動が困難になる事業所が急増。建設、介護・看護等は外国人頼みの状況に ・多くの市町の経営が困難になり、民間委託、事務組合の組成、県への事務委託などが進む。 ・南海トラフ地震が発生し、県内でも多くの被害が発生。人口減少下での創造的復興の取組が進展
地域づくりの方向性	<ul style="list-style-type: none"> ・人を引き付ける都市空間の形成(主に大都市)、良質な自然環境の創造と保全(主に多自然地域) ・道路、上下水道、港湾・漁港、教育施設等の社会基盤の維持更新の選択と集中(主に多自然地域) ・地域づくりの阻害要因として深刻化する所有者不明土地や放置空き家の問題への効果的な対応 ・中小企業の生産性向上のための企業統合、事業承継とリカレント教育の普及による人材の流動性向上 ・ICTの活用による生活サービスの高度化、経済のグローバル化やAI時代に対応する人材の育成 ・外国人居住者の増加、介護の必要な高齢者の増加等に対応するユニバーサルな安心社会づくり

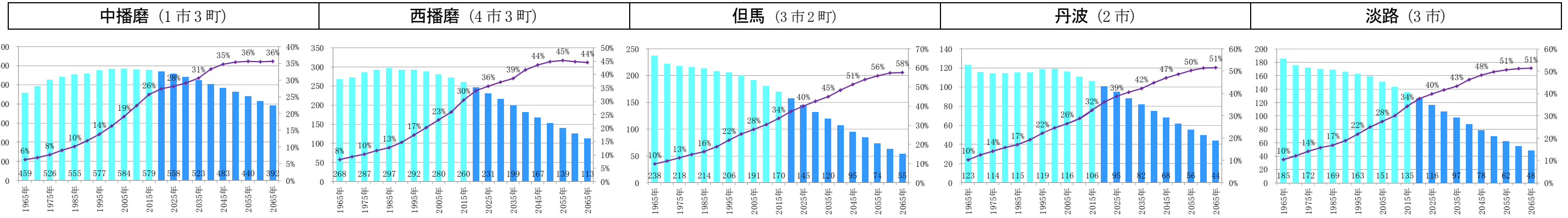
地域別（その1）

※グラフはすべて「1965～2065年の人口(千人)と65歳以上人口比率の推移(2020年以降は推計)」



	①557km ² 、②2,742人、③718千戸	①169km ² 、②6,113人、③473千戸	①481km ² 、②1,496人、③295千戸	①266km ² 、②2,684人、③294千戸	①896km ² 、②299人、③101千戸
当面の基盤整備等	<ul style="list-style-type: none"> ○大阪湾岸道路西伸部・神戸西バイパス開通(2030頃) ○三宮再整備、県庁周辺再整備(2030頃) ○スパコン「富岳」供用開始(2021) ○神戸空港の運用時間延長、国際線就航等 ▲南海トラフ地震(震度6強、津波3.9m) 	<ul style="list-style-type: none"> ○名神湾岸連絡線開通(2030) ○県立西宮病院と西宮市立中央病院の統合 ▲南海トラフ地震(震度6強:尼崎、6弱:西宮・芦屋、津波:尼崎 4.0m、西宮 3.7m、芦屋 3.7m) 	<ul style="list-style-type: none"> ○宝塚中心市街地魅力向上(新宝塚ホテル開業・市立文化芸術センター開設(2020)等) ○千刈ダムの治水活用による武庫川の治水安全度向上(2022) ▲南海トラフ地震(震度6強:伊丹、6弱:宝塚・川西) 	<ul style="list-style-type: none"> ○明石港東外港地区再開発(2020～) ○播磨臨海地域道路整備(優先区間[第二神明～明姫幹線、高砂～飾磨 BP]開通:2038頃まで) ○東播磨道、神戸西バイパス等の順次整備 ▲南海トラフ地震(震度6強:明石・加古川・高砂・播磨、6弱:稲美) 	<ul style="list-style-type: none"> ○東播磨道北工区(八幡稲美～小野)開通(2024頃) ○東播丹波連絡道路整備 ○西脇市役所新庁舎整備 ▲南海トラフ地震(震度6弱:三木・小野・加西・加東)
地域の姿	<ul style="list-style-type: none"> ○神戸医療産業都市への企業集積が進み、世界的な健康・医療産業の拠点地域に ○三宮再整備をはじめ街並み・景観の魅力が向上し「デザイン都市」のブランドが強化 ○都市山「六甲」で外国人観光客が増加、遊休施設を生かした事業所開設も進展 ▲都市間競争力の低下(リニア開業等で人・情報・資金が集中する大阪との差が拡大) ▲若者を中心とした転出超過 ▲北西部から南東部(東灘区～兵庫区)への人口移動が進行し、西区・須磨区を中心にオールドニュータウン化が進行 ▲高齢者の増加と介護需要の増大 	<ul style="list-style-type: none"> ○駅前・駅近の再開発による人口流入で JR、阪急、阪神沿線へ人口が集積 ○空き地・空き家の有効活用や緑地化が進められ、豊かな居住空間が形成 ▲一時的な人口流入による学校等の公共施設の容量超過 ▲大阪の再開発やIRの整備等により圏域内の商業施設の衰退・撤退が進行 ▲若年人口の減少により大学が減少(リカレント教育の拠点として活性化する可能性あり) ▲高齢者の増加と介護需要の増大 	<ul style="list-style-type: none"> ○北部から南部(伊丹)へ人口の重心が移動 ○大阪空港の活性化や新名神高速道路の整備など交通ネットワークの充実により企業立地や転入人口が拡大 ○都市近郊の豊かな自然を求めて、二地域居住や楽農生活を楽しむ人々が増加 ○遊休地の増加や新鮮な農産物へのニーズの高まりにより都市近郊農業が活性化 ▲オールドニュータウン問題(高齢化・老朽化によるコミュニティ停滞や住環境の悪化) ▲高齢者の増加と介護需要の増大(三田市、猪名川町等で顕著) 	<ul style="list-style-type: none"> ○周辺市区町から明石市への人口流入が継続、ウォーターフロント開発や公園整備と相まって明石市街地が賑わいの拠点に ○デマンド型交通の充実などにより、郊外の生活利便性が向上 ○播磨臨海地域道路の整備等により国道2号の渋滞解消など生活環境が改善 ▲産業構造の変化等でものづくり産業が衰退 ▲地域交通が衰退し、郊外の利便性が低下、若者を中心に転出が拡大 	<ul style="list-style-type: none"> ○小野、加東等の国道175号沿線への集住と生活利便施設の集積が進行 ○デマンド型交通の充実などにより、郊外の生活利便性が向上 ▲圏域全体に疎住化が進行(市街地の範囲が不明瞭化) ▲農業従事者の高齢化の進行により、耕作放棄地が拡大 ▲外国人就労者との共生が進まず、トラブルや不安が増大(加東市等) ▲神戸電鉄粟生線、北条鉄道等が経営難に ▲人口減少による市場の縮小等により地場産業が衰退(播州織、三木金物、杉原紙等)
地域づくりの方向性	<ul style="list-style-type: none"> ・起業・創業の促進 ・医療等強みを持つ産業の競争力強化 ・食、スイーツ、ファッションなど都市生活に根ざした産業の振興 ・空港、主要駅、バスターミナルを結ぶ交通結節機能の強化 ・水辺空間を活用した賑わいの創出 ・介護需要に応じた施設整備、在宅介護の環境整備 	<ul style="list-style-type: none"> ・駅前・駅近の再開発や臨海部での魅力的な住環境整備による転入促進 ・急増する介護需要に応じた施設整備、在宅介護の環境整備 ・阪神間モダニズムの再興など芸術文化を生かして地域のブランド力を強化(阪神北地域と一体的に推進) ・大阪湾ベイエリアの交流拠点化(ホテル整備などウォーターフロント開発、海上アクセス整備等) 	<ul style="list-style-type: none"> ・郊外部の公共交通の充実など日常生活圏の利便性確保による転出抑制 ・オールドニュータウンの再生等による魅力ある住環境の整備 ・六甲・北摂山系など近郊の自然保全 ・急増する介護需要に応じた施設整備、在宅介護の環境整備 ・風水害の大規模化を踏まえた武庫川、猪名川等の流域対策の強化 	<ul style="list-style-type: none"> ・ロボット、航空機、エネルギー等の成長産業・新産業の育成、立地促進 ・自動運転等の革新技術も取り入れた地域デマンド交通など移動手段の確保 ・明石城等の歴史・文化資源やウォーターフロントを活かした観光誘客 ・医療・福祉の充実した地域としてのブランド化による子育て世帯の転入促進 	<ul style="list-style-type: none"> ・ICT等を活用した農業等の生産性向上 ・外国人が暮らしやすい生活基盤の整備 ・自動運転等の革新技術も取り入れた地域デマンド交通など移動手段の確保 ・地場産業のブランド化や海外展開の強化 ・食やリゾート施設、ゴルフ場の集積等を生かした誘客促進 ・子育て、医療・介護体制の充実による安心の確保

地域別（その2）



	①865km ² 、②663人、③234千戸	①1,567km ² 、②161人、③96千戸	①2,133km ² 、②76人、③62千戸	①871km ² 、②118人、③39千戸	①596km ² 、②218人、③53千戸
③面の基盤整備等	<ul style="list-style-type: none"> ○播磨臨海地域道路整備(優先区間[高砂～飾磨 BP、飾磨 BP～広畑]開通:2038 頃まで) ○姫路港旅客ターミナル整備(2022) ○はりま姫路総合医療センター(仮称)開院 ▲南海トラフ地震(震度6強:姫路) 	<ul style="list-style-type: none"> ○中国横断自動車道姫路鳥取線開通(2022) ▲南海トラフ地震(震度6強:たつの、6弱:相生・赤穂・太子) 	<ul style="list-style-type: none"> ○国際観光芸術専門職大学の開設(2021) ○山陰近畿自動車道、北近畿豊岡自動車道整備 ○但馬空港の活用 	<ul style="list-style-type: none"> ○東播丹波連絡道路整備 ○丹波市役所新庁舎整備 	<ul style="list-style-type: none"> ○北淡路の活性化(国営明石海峡公園におけるPark-PFI等) ○「鳴門の渦潮」の世界遺産登録推進 ▲南海トラフ地震(震度7:洲本・南あわじ、6強:淡路、津波:南あわじ 8.1m、洲本 5.3m、淡路 3.1m)
地域の姿	<ul style="list-style-type: none"> ○播磨西部の中心都市として姫路市の存在感が更に上昇 ○高速道路の結節点である福崎 IC 周辺地区に北部の生活利便施設が集積 ○姫路城をめざす外国人観光客が増加 ▲姫路市内での中心市街地への都市機能の集積と集住化が進行し、郊外は過疎化 ▲内陸の中山間地域(特に旧安富・夢前町域)や離島(家島)は人口減少に歯止めがかからず、実質無人化する地域が拡大 ▲産業構造の変化等でものづくり産業が衰退 	<ul style="list-style-type: none"> ○播磨科学公園都市の域内交通が充実し、職住近接のまちとして一定の賑わいを維持 ○瀬戸内の海岸線や城下町、多くの山城等の地域資源を生かした交流人口が拡大 ▲圏域全体が大幅に人口減少する中、姫路に隣接する太子町やたつの市南東部への集住が進行 ▲相生、赤穂、たつの等の中心市街地の衰退 ▲播磨科学公園都市の維持が困難化 	<ul style="list-style-type: none"> ○城崎を中心に交流人口が拡大 ○国際的な演劇祭の開催など舞台芸術で世界から人が集まる地域として定着 ○但馬牛などブランド農畜産物の生産が拡大 ○広大な未利用空間を活用した新たなビジネスの展開(バイオマス発電所、牧場) ▲圏域全体が大幅に人口減少する中、北部は豊岡市街地、南部は和田山市街地への集住が進行、生活利便施設も集積 	<ul style="list-style-type: none"> ○大都市との近接性を生かして空き家を活用した二地域居住、多自然居住が拡大 ○古民家を改修した宿泊施設やレストランの整備が進み、滞在型ツーリズムが拡大 ○ブランド農作物(粟、豆等)の生産が拡大 ▲高速道路 IC 周辺に生活利便施設が集中 ▲圏域全体に疎住化が進行(市街地の範囲が不明瞭化) 	<ul style="list-style-type: none"> ○大都市との近接性や豊かな自然など恵まれた環境に価値を見出した企業の立地が拡大 ○再生可能エネルギーの活用拡大や蓄電技術の進歩によりエネルギーの自立が実現 ○サイクルツーリズムが拡大、温暖な気候や豊かな食を求める長期滞在型の観光客も増加 ▲圏域全体に疎住化が進行(市街地の範囲が不明瞭化) ▲大幅な人口減少に伴い、地域の基幹産業である農水産業や観光業の担い手が不足 ▲利用者の減少に伴うバス路線の廃止など域内交通の維持が困難化
地域づくりの方向性	<ul style="list-style-type: none"> ・姫路城を生かした交流人口の拡大(宿泊客の増加、日本文化体験プログラム展開、ユニークベニューの充実による MICE 誘致、姫路港の瀬戸海クルージング拠点化) ・金属産業の集積を生かした産学官連携による「メタルベルト」の形成、新素材開発推進 ・第二の鹿ノ瀬の整備等による漁業の活性化 	<ul style="list-style-type: none"> ・林業の活性化、バイオマス資源の積極活用 ・山城を生かした観光誘客 ・森林体験、森林管理、野生動物保護管理を担うレンジャー(森林管理員)の育成 ・岡山、鳥取との交流・連携強化 	<ul style="list-style-type: none"> ・生活圏のブロック化による生活利便施設の撤退抑制、道の駅やコンビニの生活拠点化 ・山陰海岸ジオパークを生かした体験型観光誘客の促進(鳥取、京都との連携強化) ・舞台芸術の郷としての地域ブランド形成 	<ul style="list-style-type: none"> ・二地域居住、UJI ターン起業の促進(都会に近い田舎としてのブランド確立、空き家再生) ・日本遺産を生かした観光誘客 ・大丹波連携(京都との連携)による広域観光や地域産品ブランド化の推進 	<ul style="list-style-type: none"> ・先端技術の活用や遊休農地を活用した新規就農者の呼び込み等による農業の高度化 ・徳島とも連携したサイクルツーリズムの推進 ・大阪湾ベイエリアの交流拠点化(豊かな食、自然を生かした「癒しの島」としての誘客) ・自由度の高い移手段の確保(革新技術も取り入れたデマンド型交通等)